



RFV-75
7th MODEL
¥75,000
Color: WR, CH, BL

Photo: RSG-75-74

ヘビーメタルサウンドに不可欠のオーバードライブサウンドを得意とする攻撃的なシェイプのRFV MODEL。オリジナルは1958年の発表から現在までに'64、'70、'74の3タイプがあるが、最もつばなんといつても'74 MODELだ。メカの強いアタックの強いサウンド。オールラウンドプレイヤーからも独得の厚みのあるサステインを、あまらずこのRFVは再現している。



RSA-100
'60 MODEL
¥100,000

Photo: RSA-100-00

ES-335が登場したのは、1957〜58年頃。リアー・カールトンやリリー・リトルが好んで使用しているのは、'60年のリトル・レイ、ストップ・タイム・ビーズのもの。そのスリムなマホガニーネックでも、335の演奏性を損ねないよう、'60 MODELは、90年代で再現した。セミアフの命ともいえるボディは、オールラウンドなサウンドと優れた演奏性のマイアミ・マホガニー・センターブロック・スプルースとマホガニーのコンビネーションに完璧なスペックを備えている。



'63 MODEL
¥75,000
Color: CR

'69 MODEL
¥75,000
Color: CR

Photo: RSG-75-00

Photo: RSG-75-00

S0スタンダードの'63 MODELと'69 MODELをREVIVALさせたのが、RSGだ。ライトなマホガニー・スプルースボディ、ダブルカッタウェイには、いびきポジションでの演奏を得意とする軽量ボディの相乗効果でライブでの演奏性は群を抜いている。また、P.U.の反応は鋭く、サウンドはホットだ。カラーは、CR(チェリーレッド)とWN(ウォールナット)の2種類が用意されている。

RSG-75



RLJ-80
'58 MODEL
¥80,000
Color: CR

RTV-80
'58 MODEL
¥80,000
Color: Y

Photo: RLJ-80-57

Photo: RTV-80-38

レスポールジュニアの発表は1955年。この頃は、シングルカッタウェイの21-サンバーストアップだ。'58年になると、このRLJ、RTVのマイナーと目撃しているダブルカッタウェイのモデルになった。これらは、ギターの基本といえんかのシングル構造は、プレイヤーの注意を裏面に誘引してくれるのだ。シングルコイルには珍しい、太く芯のあるサウンドをRevivalさせたのだ。

なお、当時のGibsonではイェローフェイスはすべてTV MODELと呼んでいた。それは、その頃の白黒テレビではイエローの方がテレビ写りが良かったという理由からネーミングされていたのだ。だから、RLJとRTVの前身はまったく同じというわけだ。



REX-80
7th MODEL
¥80,000
Color: N

Photo: REX-80-76

エクスプローラーは、1958に発表された。この頃のボディは、アフリカンコーナが使用されていた。その後、生産は中止され、'76年に再び出てくる。ボディはレスポール・スタンダードのバックと同様のマホガニーが用いられ、ハードウェアはすべてゴールド仕様になった。マホガニー・単振ボディとマホガニー・ローズ指板セットアップの絶妙なコンビネーションから引出されるサステインの強い、タイトなサウンドをすべて再現したのが、このREVIVAL REX-80 '76 MODELなのだ。